

MUSIC MAGAZINE

4 2023
APRIL

特集 傑作音楽ドキュメンタリー 100

『デヴィッド・ボウイ ムーンエイジ・デイドリーム』

ブラック・カントリー・ニュー・ロード
ムーンライダーズ
シカゴのジャズ／音響派30選



Adriana Calcanhotto

“Errante”

Modern [Germany]

3・31発売

開放的な曲が目につく 精鋭たちと一緒に作られた新作

このアドリアーナ・カルカニョットの新作は、まずバンド・サウンドがとても快い。演奏の軸となっているのは、本作のプロデューサーでもあるダヴィ・モライス(8)を筆頭に、アルベルト・コンチネンチーノ(b / kbd)、ドメニコ・ランセロッチ(ds / per)の3人。唯一の英語曲である6曲目には、ホドリゴ・アマランチがマンドリンで客演している。つまりアドリアーナの代表作である11年の『サンバの微生物』と同じ構図の、気心の知れたブラジルの精鋭たちと一緒に作られたアルバムだ。

管楽器のアンサンブルにも耳を引

きつけられる。しかも管楽器の響きはおおむね明るく、曲によっては祝祭感も感じられる。たとえば、1曲目にはトロピカリアのムーヴメントを彩った詩人オズワルド・デ・アンдраーデの「食人宣言」が引用されており、最後にはアドリアーナたちの笑い声が聞こえてくる。このアフロブラジルの曲は、派手ではないものの、アルバム全体を象徴する幕開きだ。他にも、バンデミックの出口がやっと思え始めたことを祝うかのような開放的な曲が目につく。だからこちらも、太陽の光をいっぱい浴びて深呼吸したくなる。

渡辺亨



Delia Fischer And Ricardo Bacelar

“Andar Com Gil”

Jasmin [Brazil]

1・27発売

声とピアノで対話をしながら ジウの心の内を探っているかのよう

80年代にはロック・バンドハノイ・ハノイのメンバーとして名を馳せたヒカルド・バセラルと、ジスモンチ作品集などでも知られるデリア・フィッシャー。共にシンガー・ソングライター兼ピアニストとしてMPB(インスト界を股にかけて活躍する二人が、デュオでジウベルト・ジウ作品に取り組んだ共演作。

。精神、や、心、について歌った曲を選んだとのこと、まるで二人が、声とピアノで対話をしながら、ジウの心の内を探っているかのよう。歌心の琴線を探る二人の冒険は、ジウア

ン・ドナート作のインスト曲に後にジウが歌詞をつけた「バエス」で、ジウの歌の世界のみならず、もともとの曲が持つドナートの曲の歌心にもアクセスしていて、MPBファンを楽しませてくれる。原則的には音数も少なく、声とピアノの掛け合いが主役の作品だが、曲によっては必要に応じて、マルチ奏者でもあるヒカルドがシンセサイザーや打楽器、弦楽器を加えている。そんな二人による音の対話に、チェロでジャキス・モレレンバウンが加わった「ブレシ」では、さらにジウ本人も参加している。

駒形四郎